各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表

主催	実施期	日時	開催方法	テーマ	講師	概要（300時程度）	全学周知	担当者	センターnews	参加人数
文学部	前期	2021年6月16日（水） 15:15～16:05	オンライン開催（Zoom）	ハラスメントの防止について ～加害者・被害者にならないために～	越山　和広 教授 （法学部法律学科）	コロナウイルスが世界中に蔓延し、様々な感染防止対策が始まって一年以上が経過した。終わりのない非常事態の下、各自に様々な負担・ストレスが過重にかかっており、特に立場の弱い者や発信力の小さい者に対し、その傾向が顕著であることは想像にかたくない。 今回は大学におけるハラスメントの実態と問題点を取り上げ、被害者をなくすだけではなく、加害者にならないための対策方法、具体的なノウハウを教育職員・事務職員で共有し、ハラスメント行為を未然に防ぎたい。	○	文学部教務課 （内線：5014／担当：龍）	1	96
	後期	2022年3月2日（水） 15:00～16:00	オンライン開催（Teams）	文学部社会人基礎力講座の総括について	堀田和弥氏（龍谷大学キャリセンター）	文学部では従来、4年制学部の中で就職率が最も低く、またキャリアセンターの利用率も低調であった。そこで2012年以来、その対策としてキャリアセンターの利用促進、学生自身が主体的に取り組める形式（ワーク等）の導入、そして演習時間帯総計4コマにおける社会人基礎力講座の導入などを段階的に実現してきた。その結果、文学部における就職内定率ならびに就職活動への意識は明らかに向上した。 特に演習時間帯における社会人基礎力講座の導入は龍谷大学内でも先進的な取り組みであり、学生のキャリアへの意識を変えたことは間違いないであろう。 一方で、学科専攻の学びと社会人基礎力養成講座との連携など、今後の課題が存在することも確かである。そこで本報告会では、まずこれまでの取り組みとその効果をデータとともに振り返り、次に総括を踏まえた上で改善点や今後の課題について議論をおこなないたい。	○	文学部教務課担当：龍	31	90
文学研究科	後期	2021年11月17日（水）	オンライン開催 （teams）	文学研究科における科研費獲得を目的とした報告会	安井　重雄（文学部教授・文学研究科教務委員） 塩野崎　信也（文学部講師） 浪野　哲亮（文学部教授）	2021年度科学研究費助成事業新規採択状況（2021年4月8日現在、研究部資料）によれば、文学部の採択率は41.7%である。これは申請件数に対する採択件数の割合である。昨年度は20.0%、一昨年度は58.3%であった。採択率は年度により変動があり、また申請の有無についても様々な立場があろう。 一方で校務等の多忙さから申請したくてもなかなかできない、申請のノウハウやコツを教えてほしい等の声を聞く限状がある。 　そこで今回、申請書記入のノウハウや獲得のコツ等、科研費を獲得し今年度稼働中の先生方から具体的なエビソードやノウハウについてお聞き し、情報共有する場を設定することを提案する。文学研究科FD報告会では、はじめての試みである。今回は申請することに迷っておられる先生方を主な対象として、①研究規模、②申請書記入のコツやポイント、③予算配分、④その他（申請動機等）等について、大変限られた時間ではあるが、ご報告いただく予定である。 なお、今回の文学研究科FD報告会をはじめとして今後、科研費獲得のための報告会を継続的に展開する予定である。	○	文学部教務課	13	50
		2021年12月1日（水） 14:40～15:40	オンライン開催（Zoom）	キャリアパスの可視化に向けての検討 ー予測困難な時代に求められる人材ー	大日本住友製薬株式会社人事部（人材育成担当）キャリアコンサルタント／立命館大学大学院キャリアパス推進室コーディネーター 桜倉朋宏氏 「新たな時代に求められる人材ーリーダーシップ論ー」	大学院生に特化したキャリア教育・支援については、大学院教学会議のもとに設置された「キャリアパスの可視化検討ワーキンググループ」により検討・報告され、その結果に基づき、2021年度以降は具体的な取り組みとして進められている。文学研究科においても今年度の重点政策の1つに掲げ、さらに継続展開するものである。 そこで今回、学外機関関係者との情報共有の場を設定することとした。今回は文系理系の別なく、大学院修了後の進路モデルや進学メリットの具体化の第一歩として位置づけ、将来の予測が困難な時代に求められる人材のキャリア教育・支援の課題とは何か、また教職員相互の情報共有を図ることをねらいとする。	○	文学部教務課 （担当：橋本）	16	34
実践真宗学研究科	前期	2021年6月30日（水） 11:00～11:30	オンライン開催（Zoom）	実践真宗学研究科の研究の動向について ー「龍谷大学大学院実践真宗学研究科紀要」に掲載されている要旨から－	杉岡　孝紀 （龍谷大学文学部教授　実践真宗学研究科長補佐、実践真宗学研究科FD委員会委員長） 葛野　晏利華 （龍谷大学実践真宗学研究科事務補助、アシスタントスタッフ）	実践真宗学研究科が創設してから10年が経ち、研究成果の要旨が100タイトル超えた。 実践真宗学研究科の研究は「宗教実践分野」もしくは「社会実践分野」が主要な研テーマであり、さらに実習を伴った研究である。 今回の報告では100タイトル以上の要旨から、紀要の各号における研究の動向、さらに、「宗教実践分野」「社会実践分野」における動向も窺い、10年間で蓄積された実践真宗学研究科の動向を振り返るとと実践真宗学研究科の強みや今後の課題を報告する。	○	文学部教務課 （内線：5010／担当：原）	4	9
経済学部		2022年1月19日（水） 15:15～16:45	対面（深草学舎22号館302教室） オンライン併用	よいグループワークとは―ファシリテーション入門―	追手門学院大学基盤教育機構 准教授清水栄子氏	※今回は、経済学部のビア・サポーター（PS）対象の研修会を公開してのFDとなります。 さまざまな授業でグループワークが取り入れられています。ビア・サポーター（PS）のみなさんも授業でのグループワークを経験していると思います。ではよいグループワークとはどのようなものでしょうか。 本研修ではよいグループワークを行うためのファシリテーションについて取り上げます。ファシリテーションとは、グループワークが円滑に行われるように中立的な立場で支援を行うことを意味します。ファシリテーションは発揮するファシリテーター役割、必要とされるスキル、心得などについて紹介します。ファシリテーターとしてグループワークをどのように支援していけばよいのかをPSのみなさんと一緒に考えていきたいと思います。本研修は、グループディスカッションを取り入れた参加型の研修スタイルで行います。	○	経済学部教務課 （内線：1335／担当者：武澤・高見）	21	4
経済学研究科	後期	2021年12月15日（水） 17:00～17:20	オンライン開催（Teams）	英語開講科目の現状	蛭川雅之教授 （研究科教務主任、経済学研究科）	経済学研究科では、英語開講科目を複数開講しています。この報告会では、英語開講科目授業担当者からのヒアリングをもとに、講義で扱う話題、使用教材、課題点を共有し、今後の授業運営に活かすことを目的としています。	○	経済学部教務課 （担当：田中）	17	25
経営学部	前期	2021年7月30日（金） 15:00～	オンライン開催（Google meet）	合同型演習における合同報告会	経営学部 坂本雅則ゼミ、濵田崇嘉ゼミ（3年生）	社会人基礎力をゼミで養成することを目指した経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会Ⅰ」を実施する。	○	経営学部教務課 （担当：北川）	7	8
	後期	2021年10月20日（水） 15:30～	オンライン開催（Google meet）	2021年度プログラム科目実施報告会	プログラム科目担当教員	【2021年度プログラム科目実施報告会】 経営学部では、2008年度以降新カリキュラムとして、「現場で学ぶ経営学」をコンセプトとしたプログラム科目を開設し、理論だけでなく実習教育も展開しています。今回の報告会では、プログラム科目の実施状況およびその学習効果について各担当者が報告し、同科目の情報共有を図ることを目的とします。 【スケジュール（予定）】 15:30～「起業論B」実施報告（報告者：秋庭太准教授） 15:45～「地域と企業」実施報告（報告者：細川孝教授） 16:00～質疑応答	○	経営学部教務課 （担当：北川）	9	8
		2022年1月28日（金）	オンライン開催（zoom）	経営学部 坂本雅則ゼミ、濵田崇嘉ゼミ（3年生）	プログラム科目担当教員	社会人基礎力をゼミで養成することを目指した経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会Ⅱ」を実施する。坂本ゼミと濵田ゼミのゼミ生（3年生）が下級生のチームワークに日常的にコーチングを行った結果から、どのようなことをつかんだのかを成果報告する。	○	経営学部教務課 （担当：北川）	23	8
法学部	前期	2021年12月15日（水） 15:15～	オンライン開催（ZOOM）	オンライン授業における成績評価について	斎藤司（法学部教員）	オンライン授業における成績評価は、公平性の確保なども含め、いくつもの問題点を抱えています。今回のFDでは、オンライン授業における公平かつよりよい成績評価の構築を目指して、法学部教員へのアンケートも交えながら、学生への告知方法・不正行為への対応、課題内容などについて議論する予定です。 なお、報告者からは、議論の題材として担当授業における実践例を簡単に紹介する予定です。 他学部の教員の皆様の経験やご意見も交えて議論できればと考えております。	○	法学部教務課 （担当：河野）	14	45
政策学部	後期	2022年1月19日（水） 13:30～15:00	オンライン（Zoom）	政策実践・探究演習（海外）南京プログラム報告会	金紅実准教授 政策実践・探究演習（海外）南京プログラム受講生	「政策実践・探究演習（海外）」は政策学部で開講しているPBL（Problem-based-learning）科目の一つです。 南京プログラムでは、国際的な視野に立ち、日中両国の大学生が協働で地域社会の課題を見つめ直し、内発的発展のための政策提言を行います。 また、語学研修を目的とする国際交流とは異なり、相手国の地域社会に密着した課題発見と解決策の探究に挑むことも大きな特徴の一つです。FD報告会では、新型コロナウイルス禍の中、オンライン上での交流を通じて、一年間プロジェクト活動に取り組んだ学生が、活動を通してどのような課題を発見し、課題解決に向けてどのように取り組んだか、そこから何を学んだかといった学修成果の報告を行います。	○	政策学部教務課	24	21
国際学部 国際学研究科	後期	2022年2月9日（水） 11:00～12:00	オンライン（Zoom）	在外研究員事後報告会	①国際学部グローバルスタディーズ学科 ビゴットジュリアン先生 ②国際学部国際文化学科	2020年度に在外研究員として活動された先生方から、その研究内容（成果等）についてご報告いただきます。 【ビゴット先生】タイトル："Tribes of the Internet Age" 【高崎先生】タイトル：「回行避難をめぐる現状と課題」	○	国際学部教務課 （担当：石橋）	28	18
先端理工学部	前期	2021年6月16日（水） 14:30～15:15	オンライン開催（Zoom）	Win-Winの産学連携とは	木村　睦 （先端理工学部教授/RECセンター長）	2021年度第1回先端理工学部FD報告会として、「Win-Winの産学連携とは」と題して、講演を行う。 大学における産学連携の議論からはじめて、実際に産学連携を行うときの、企業と大学の立ち位置の提案などを示す。具体的には、企業は、資金・装置を提供し、特許を出すのがよく、共同研究においては窓口の人材が大事である。大学は、知恵・労働を提供し、論文を出すのがよく、学生もうまく参加できれば、なおよい。さらに、実際に報告者が産学連携を行ったときに、いくつかの事例を紹介する。	○	先端理工学部教務課（内線：7274/担当：谷村）	3	96
		2021年7月14日（水） 14:30～15:15	オンライン開催（Zoom）	先端理工学部R-Gap期間中のPBL科目 ―プロジェクトリサーチについて―	青井　芳史 （先端理工学部教授/プロジェクトリサーチ運営委員長）	2020年度より開始した先端理工学部の新カリキュラムでは、3年次第2クォーターと夏期休業を合わせた約3ヶ月間（3年次の6月中旬～9月上旬）を、主体的に活動できる期間「R-Gap（RyukokuGap quarter）」と位置づけている。R-Gapには必修科目を配置せず、学生が大学での授業以外の活動を自由に行う事により、主体的に学ぶ姿勢を身につけてもらうことをねらいとしている。 このR-Gap期間中に設けられるPBL科目である「プロジェクトリサーチ」は、主体性や課題解決能力を養うことを目的に、個人もしくは少人数のグループで、指導教員と相談しながら学生の自発的な発想で調査・研究活動を行う実験・実習科目である。報告会では、この「プロジェクトリサーチ」のねらい、概要、準備状況等について報告する。	○	先端理工学部教務課（内線：7274/担当：谷村）	6	96
	後期	2022年3月2日（水） 13:45～14:30	オンライン開催（Zoom）	先端理工学部オンライン授業の紹介 ①先端理工学部での学びを学ぶオンライン授業科目「理工学のすすめ」 ②計算機実習科目のオンライン化（反転学習）	宮崎欣也（先端理工学部・教授） 植村渉（先端理工学部・講師）	先端理工学部で実施している2つのオンライン授業を紹介する。 ①「理工学のすすめ」は、理工学部から先端理工学部への改組に合わせて、在学4年間を充実したものとするために新入生に対する共通科目として開設された。今回を学内外の講師が担当するリレー形式の科目である。当初は新入生約600名を三つの部屋に分けて対面での並列開講を予定していたが、コロナ禍によりオンライン化を余儀なくされ現在に至る。しかし、オンライン化により思わぬメリットが生じた。当日は、本科目の構成と運用について紹介する。 ②実習科目では、各学生が個別に作業を行うため、進捗に差が出やすい。 本報告では、コロナ禍により計算機科目をオンライン化し、説明部分をそれぞれ動画として用意することで受講生が自分のペースで進められるようにした「反転授業」のスタイルを取り入れた取り組みを紹	○	先端理工学部教務課（内線：7274/担当：谷村）	32	90
理工学研究科	前期	2021年6月30日（水） 14:30～15:15	オンライン開催（Zoom）	オンライン時代における特許出願の取り組みについて ～特許成立要件と情報管理～	石崎　俊雄 （先端理工学部教授/知的財産センター評価委員会委員長） 藤河恒生先生（弁理士：こなん国際特許商標事務所）	特許成立のためには新規性、進歩性などの要件を満たすことが必要である。新規性の喪失とは何か、進歩性に求められることは何か、を解説すると共に、オンライン時代に注意すべき点を実例を踏まえて紹介する。 また、国内優先権主張出願、外国出願（PCT 出願）などの出願制度や学会発表と特許法 30 条適用による新規性喪失の例外規定についてわかりやすく説明する。これにより、オンライン時代の特許成立に必要となる情報管理の適切なやり方が見えてくる。	○	先端理工学部教務課（内線：7274/担当：谷村）	5	100
社会学部	後期	2022年1月19日(水) 15:15～16:15	オンライン開催 (zoom)	新学習指導要領から読み取る大学教育の在り方について ～「総合的な探求の時間」に焦点を置いて～(仮)	岡本　弘嗣　氏 (京都市教育委員会　指導部　学校指導課　指導主事)	新高等学校学習指導要領では、「探究の見方・考え方」を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方、生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指し、「総合的な探究の時間」が重要視されている。高等学校在学中に自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れることなどが重視されている。 社会学部として、本研修を契機に新学習指導要領への理解を深め、今後、高等学校でPBL型授業を学んで大学してくる学生に対し、大学として求められる教育内容や高等学校との連携方策について考察し、社会学部の将来構想や新たなカリキュラムの検討に活かしたい。	○	社会学部教務課	16	51
農学部	後期	2021年10月27日（水） 15:15～	オンライン開催 （teams）	「農学部 3 期生の学修状況について」/「学生調査（大学IRコンソーシアム）からみる農学部生の現状について」	石原　健吾 （農学部教務主任/FD委員長）	農学部三期生の学修状況について/農学部では、2019年度から「大学IRコンソーシアム」が企画する学生調査に参画している。今般のFD報告会では、本調査（2020年度1年次対象）の集計結果に基づき、農学部各学科、本学各学部、大学IRコンソーシアム参画大学のデータの分析をおこない、教職員による意見交換を通して農学部の教育改善に向けた検討をおこなう。	○	農学部教務課 （内線：2003/担当：泉・糸井）	11	65
		2021年12月15日（水）	オンライン	入学前教育について	農学部食料農業システム学科山口道利准教授 （農学部高大連携委員会委員長）	農学部では、龍谷大学付属平安高等学校入学試験をはじめとする専願入試や公募推薦の合格者に対し、入試形態に応じた入学前教育を実施し、入学後はプレースメントテスト（生物・化学・数学）の結果を基に、理解度が不十分な学生にリメディアル教育科目の受講を課している。 今回の農学部FD報告会においては、入学前教育の実施状況とリメディアル教育科目受講者の傾向について分析し、入学前教育の充実に向けて検討する機会としたい。	○	農学部教務課 （内線：2003/担当：泉）	18	56
		2022年2月9日（水）	オンライン開催 （ZOOM）	入学前教育について	資源生物科学科野菜園芸学研究室講師 滝澤理仁先生 食品栄養学科病態栄養学研究室教授 宮 本賀一先生	【滝澤先生】 タイトル：果菜類の単為結果性に関する研究 内容：野菜園芸学研究室では、受精なしに果実が肥大する単為結果に関する研究を行っています。本研究紹介では、これまでに得られた研究成果や現在行っている研究内容について紹介します。 【宮本先生】 タイトル：慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常について 内容：病態栄養学研究室では、慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常に関して研究を行っています。本研究紹介では、これまでの成果と最新の研究に関して紹介します。	○	農学部教務課 （内線：2006/担当：泉）	25	58
農学部 農学研究科	前期	2021年6月16日（水） 15:15～16:00	オンライン開催（Teams）	農学部・農学研究科における進路実績報告	佐々木　真依 （キャリアセンター）	農学部三期生及び農学研二期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	○	農学部教務課 （内線：2003/担当：泉）	2	65
農学研究科	後期	2021年11月10日（水）	オンライン開催 （teams）	大学院進学と大学院生のキャリア教育・支援について	農学研究科キャリア主任 香川　文庸　教授 農学教務科教務主任 朝見　祐也　准教授	2019年度に修士課程、2020年度に博士後期課程生の完成度を迎え、修了生を輩出した。特に、修士課程において、2年間という在学期間で、研究と進路選択を迫られ多忙な毎日を送るため、指導教員等の支援体制が重要である。農学研究科設立から60年以上経つ明治大学と支援策をヒアリングした内容を当該研究科の教員が紹介しつつ、本学農学研究科の院生のキャリア教育・支援について考える。	○	農学部教務課	12	47
短期大学部	後期	2021年10月20日（水） 15:30-16:30	深草学舎 和顔館B110教室	授業におけるKJ法の活用	短期大学部 川崎　昭博	KJ法の概論説明後に、点メモの授業活用について川崎教授から話題提供していただきます。 卒論執筆や、課題の整理、会話の要点をまとめる等学生指導に活用している内容についてお話しいただきみなさまと意見交換したいと思います。 感染予防の上、対面実施でおこないます。	○	短期大学部教務課	10	16